

製品名: ATP5G1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07331**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | ATP5G1 |
| 別名 | ATP5G1; ATP synthase lipid-binding protein; mitochondrial; ATP synthase proteolipid P1; ATPase protein 9; ATPase subunit c |
| 遺伝子 ID | 516.0 |
| SwissProt ID | P05496 |
| 免疫原 | ヒト ATP5G1 の内部領域から得られた合成ペプチド。 |

背景

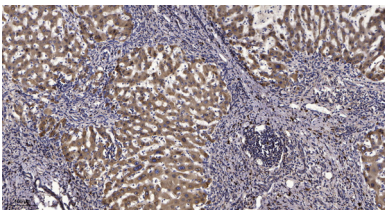
この遺伝子は、ミトコンドリア ATP 合成酵素のサブユニットをコードします。ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応

中に内膜を横切るプロトンの電気化学的勾配を利用して ATP 合成を触媒します。ATP 合成酵素は、可溶性の触媒コアである F1 と、プロトンチャネルを構成する膜貫通成分である Fo という、2つの連結したマルチサブユニット複合体で構成されています。ミトコンドリア ATP 合成酵素の触媒部分は、5つの異なるサブユニット（アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ、イプシロン）で構成され、アルファが3つ、ベータが3つ、そして他の3つを代表するサブユニットが1つという化学量論で組み立てられています。プロトンチャネルは9つのサブユニット（a、b、c、d、e、f、g、F6、8）を持つと考えられています。この遺伝子は、プロトンチャネルのサブユニット c をコードする3つの遺伝子の1つです。3つの遺伝子はそれぞれ異なるミトコンドリア輸入配列を持っていますが、同じ遺伝子をコードしています。疾患：このタンパク質は、セロイドリポフスチン症（バッテン病）に罹患した動物や人間の貯蔵体内に貯蔵される主要なタンパク質です。機能：ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1) と膜プロトンチャネルを含む F(0) の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で連結されています。触媒反応の間、F(1) の触媒ドメインでの ATP 合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの転座と結合しています。複合体 F(0) ドメインの一部です。おそらく10個のサブユニットからなる相同 C リングは、複合回転要素の一部です。その他:ミトコンドリア ATP 合成酵素プロテオリピドをコードする遺伝子は3つあり、それらは異なる輸入配列を持つものの、成熟タンパク質は同一である前駆体を特定します。類似性:ATPase C 鎖ファミリーに属します。サブユニット:F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャネルである CF(0)の2つの構成要素から構成されています。サブユニット:F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャネルである CF(0)の2つの構成要素から構成されています。CF(1)には、 $\alpha(3)$ 、 $\beta(3)$ 、 $\gamma(1)$ 、 $\delta(1)$ 、 $\epsilon(1)$ の5つのサブユニットがあります。CF(0)には、 α 、B、Cの3つの主要サブユニットがあります。

研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した（4℃で一晩）。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、45分）。